

9月26日((火))帰国する日を迎えました。ボストン・ローガン空港 13:20 発で、東京・成田空港に同日 16:15 着とのこと。3時間のフライトのようですが、実は14時間かかります。市沢氏が空港まで送り届けてくださいました。何から何までお世話になり、感謝でいっぱいです。



前日プリマスでピルグリム達が乗船したメイフラワー号のレプリカを見学しました。メイフラワー号は貨物船でしたが、102人の乗客、30余人の乗組員を乗せて、1620年9月6日に故国を出港し、大西洋を横断し、11月11日にケープ・コッド湾に辿り着いたそうです。66日間を要しました。寒い冬でしたから、春まで船にいたと言います。

それから230年以上も経ったジョセフ・ヒコの旅の場合は、船でサンフランシスコからカリブ海あたりまで。陸路を横断し、プエルトリコから再び船でニューヨークに。ニューヨークからボルチモアまで、初めて汽車に乗り、驚いています。ボストンまでは海路です。現在の船旅はパナマ運河を通過するでしょう。私たちは800~900km/hのジェット機での旅となっています。



メイフラワー号では当時の方位針のようなもの(左)がありました。36角です。1853年のニューヨーク万博に出品された八幡丸の漂流民・勇之助が持っていた日本の羅針盤(右)は12角なので、ピース船長が珍しがっていました。



また、プリマス・パタクセットの農家に鎖帷子(左)が吊ってありましたが、ピーボデイ博物館に保存されているジョセフ・ヒコがトマス・ケアリー氏に送った鎖帷子(右)に似ていて、驚きました。



鎖帷子は刀などの斬撃用の防具であったと思われます。物は進化しています。今ではミサイルやドローンなどを使った見えない敵との戦いになってきて、防ぎようがありません。

サンドウィッチで、日曜日に教会に行きたかったのですが、ハリケーンのため予定変更となり、残念でした。出かける前にYOU-TUBEで礼拝を見て、言葉が1割程度しか分からないものの、礼拝中でも牧師と教会員の対話や応答が自由で、伸びやかで、和やかなのに、驚きました。

ニューイングランドに旅して、幸せでしたが、アメリカの入植による先住民の悲劇も見ることになりました。大都会ボストンではアフリカ系アメリカ人の姿を見かけ、いまだに人種差別の傷跡を感じずにはられません。私の目が悪いのでしょうか。さらに、「ホームレス」と札を下げた人々を見かけました。経済格差が大きいのでしょうか。日本でも先住民アイヌの排除、朝鮮を併合し朝鮮人を奴隷化した歴史があります。そのために、被害を与え、傷つただけではなく、日本人自身も、名誉を失っていますし、無責任のそしりを免れていません。物だけではなく、人間も進化したいと思わずにられません。